

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型に添うように新たに理念を作り変えた	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念変更時に職員全員と其の趣旨の説明をし理解と実践を話し合った。又毎月曜朝のミーティング時に確認をしています	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	見学にお出いただいた皆様にはお話ししているが地域全体に理解していただくまでにはなっていない	○ 色々な機会を作りもっと多くの皆さんに理解していただく努力が必要と思っている
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の途中にお会いしたりした時には必ずご挨拶をするとか、お寄り下さいとか声かけし、実際にお出でくださる方もいらっしゃいます。又野菜を取りに来てとかお声がかかり、畑まで頂きにあげることもあります。ホームの前の畑仕事をしていらっしゃる方にはお茶を差し上げたりしている。	○ お近くの方との日常的な交流が出来るまでに行きたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会等には参加してはいませんが地域の活動としての空き缶拾い等の時には参加させてくださいとお話しています。又施設の行事の時にはおまねきしたりしている。施設の見学会を開きお出でいただいている。地域の中学校との交流もしている	○ まずは経営者が地元の方に知っていただく為に地元の方々との交流を深めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学生の職場体験を受入れている。公民館の行事などがあると見学に行ったりしている。	○	近隣のお役に立つための方策を模索している
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の評価表を職員全員に配布し他。今回の自己評価表もコピーし、回覧し職員一人ひとりに求められているものを理解してもらおうと共に自分でしている取り組みを書き入れてもらった		今回の記入済の自己評価表も職員に配布し今後の取り組みに活かして行く。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員会では前回の評価の報告をしました。	○	今後も推進委員会の方々のご協力を得てより良いグループホームを目指して行きたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経営者は市役所へ出向き相談や助言をいただいたりしている。市役所への通信があるときにはホーム便りも一緒に送っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の方でご家族以外の方が面倒を見ていらっしゃる方がいるので入居時より成年後見制度のお話しをしている	○	これから勉強していかなくてはならない部門だと思っている
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待と言う行為はせずとも言葉による虐待という事もあるので、どんな言葉が虐待にあたるか等をミーティングの折などに話している	○	今後認知症の進行などで介護困難になった場合等にも、虐待が無いように管理者職員共に心しなければいけない問題と思う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書・重要事項説明書をお渡し充分ご理解を頂いてから契約している。ご自宅でじっくり読んでいただいてからご質問に答えるという方法を取っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は出来るだけ入居者の方とふれあいを持ち入居者の方のお話し相手になって入居者の方の思いを汲みとるよう心がけている。	○ 入居者の何気ない話も聞き流さず職員間で話しあったり推進委員会で取り上げていく
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	買い物等は家族に連絡し了解を得ている。健康については受診したときには必ず電話で連絡をしている。その他の連絡等も密にしている。月1回のホーム便りは写真が主だがご家族の皆さんは楽しみにして下さりご感想をいただくこともある。	ホーム便りをもう少し充実させたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱は設けているがこれまで利用されたことは無い。ご面会の折には必ずご家族とお話する機会を持っているのでそのと時にご意見等をお聞きしている。開設1年目にアンケート調査を実施した。	アンケートはもう1度実施したいと思うが設問の仕方を工夫しなければと思う
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に話してくる場合とミーティング等で意見が出る場合もある。月1のミーティングには経営者が出席することもある	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況に応じ早出・遅出の対応をする仕組みになっているが日中の活動を優先して取り入れているので現在は日勤に人員を多く配置している	入居者の状況に応じ柔軟な対応をして行く

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入った場合は必ず一人ひとりにご挨拶し顔と名前を覚えていただくことから始めている。		職員の定着率を上げることが課題。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に独自の介護マニュアルを渡して認知症の理解をすることから初め、3ヶ月目に業務達成度のチェックをするというように進めている。研修は機会があれば出られるように図っている。		研修の機会が少ないのが悩み。合っても勤務の都合等により1度に参加できない。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの交流を通じお互い向上できるように交流会を持った。今後も持続的に交流できるようにしていけるよう取り組んでいきたい		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	熱心に取り組んでいるとは云えない。	○	しっかりと休憩が取れるよう経営者、スタッフ共に考え始めようとしている。サービスの低下を招かず職員もリラックスできる時間を作ることが課題。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は独自の構想を持っており職員にも事あるごとに話している。	○	これからしっかり取組んでいかないと職員が定着しないと思う。運営者・管理者・職員の共通理解の下で取組んでゆきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学におい出になった際にご家族と良くお話し合いをし色々なサービスがあることなどをお話している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居されて間もない方はいらっしゃらないのでご家族の皆さんとは信頼関係が築かれていると思う。これまでの苦労や、愚痴を聞いたり相談を受けることもある	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在実績は無いが介護保険のサービスにも色々あることなどをお話している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日帰り体験等をし、納得してご利用いただけるよう取り組んでいる	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	比較のお元気な方は、車椅子を押したり、シーツ畳を手伝ったりと出来る範囲で他の入居者の面倒を見てくださる。買出しに出る時は出来るだけ一緒にカートを押していただいたりする	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご面会の折には出来るだけご家族と会話し、ご家族と相談したり、されたりの関係を築くように努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご自宅で過ごされていた時より皆さん落ち着いて生活できているので、御本人の良い状態を積極的にお伝えするようにしている。		入居者様のご自宅への外泊が叶えられない方がいらっしゃるので出其の方の外泊を実現したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の親戚の方お友達等のご訪問もある。又遠距離の方より電話が定期的にかかってくる方もいらっしゃる		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	中のよい方同士ををご一緒に外出に誘ったり、作業を一緒にすることなどしてよりよい関係が作れるよう支援している		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居されていた方が急性期の病院に入院され退居されたが後の療養病院のお世話もした。転院後もご家族や療養病院との連絡も行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが入居者の思いを汲み取れるようかかわりを大切にしている	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に至るまでの過程で家族の方からお話を伺い、ご本人のお話も丁寧にお聞きし入居後も折りに触れお話を伺っている	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各入居者様の状態を良く理解していることが異常の早期発見につながるので日頃の観察力を養うように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン会議には必ず本人にも同席していただき話し合いの経過を知っていただき一緒にプランを立てている	○ 家族の方の同席が少ないのが悩みなので家族の方の同席を増やしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングやミーティングを随時行い変化に即応した介護ができるようにしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は個別にあり丁寧な記録を心がけている		記録の大切さを職員全員が理解し、其の方の状況がわかる記録が出来るようにしていかなければと思う
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の駐在所からの巡回があり、もしもの時のお願いをしている。公民館の講座に参加させていただいたり、発表会の見学に行ったりもしている。図書館の利用もしている。中学生の演奏活動による交流もある。地区のボランティアの支援も受けている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険以外のサービス、公民館活動、保健センターの体操教室等を利用している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターのケアマネージャにお願いしグループホーム交流会が持てる様になった。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		現在直ちに必要な方はいないが病院との連携はお願いしてある。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		現在は看護職が常勤しているが今後もより必要性が求められると思うので看護職の確保が課題
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		認知症の方の場合医療機関の受入れが困難のところが多いのが現状。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		今後もターミナルケアは必要と思われるので職員教育を進めなければならないと思う
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		御本人はもとよりご家族も納得のいく終末が迎えられる事が大切と思うのでそれに応えられる様になる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居までに何度かの訪問をしていただく。許せば体験入居をしていただくことを勧めている。担当しているケアマネとも連絡を取り合っスムーズに新しい環境に慣れていただくようはかっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの声かけ等には特に配慮している。記録もいつでも公開することを念頭においている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人的に要望を聞いたりして実現に向けた取り組みをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	徘徊のある入居者の方には常に寄り添い思いを叶えるようにしている。外出等についても出来るだけ入居者の希望に添えるようにしている		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホームに美容師さんが来てくれているが気分転換に外部の美容院に行くこともある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	段々オムツの必要な入居者が増えてゆくことは避けられないと思うので如何にして本人に羞恥心や苦痛を与えないで介助することが出来るかを学んで行く
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		ADLが落ちた場合の入浴の支援をどうするかが今後の課題
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もあり、外出の折には買い物をする方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事的な外出ばかりでなくその日のお天気具合によって皆でドライブしたり。公園に出かけたりと、いつでも外出できる。車椅子用の自動車もありどなたでも比較的簡単に外出できる体制をとっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	活動的に生活する事を目的としているので常に色々なところへの外出を試みている。お正月にはその方合った所への初詣を考え全員がどこかの神社仏閣へ出かけました	○	1泊の旅行はしたことが無いので今後取り組みたいと思っています。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したり、電話かけたりは 自由になさっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ほとんどの入居者のご家族は月1～2回のご面会がある。ご面会の間隔が延びたときには近況報告を兼ねてお電話しさりげなくご面会をお願いしている。職員全員がご挨拶でき一緒にお茶が出来るようになっている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切していない		今後入居者様の状態の変化により必要が生じてくるかもしれないが、行為においても言葉においても拘束のない介護を心がけていく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関・居室共に鍵はかけていない</p>	
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>常に利用者の動向に注意を払い、寄り添う介護をしている。見守りの必要な方の場合にはスタッフ同士の声かけにより見守りから外れないように気配りしている。</p>	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>危険なものを排除し安全性を確保しながら、縫い物したり、畑仕事をしたりしている。針箱の針などは本数を確認している。ご自分の道具類をお持ちの方もいらっしゃるが取り上げたりはしないで常に職員がチェックするようにしている。</p>	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>入居者の方の状態の変化により危険度が変わるのでミーティングの際に指示したり確認をし事故防止煮を心がけている</p>	
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>職員は救急処置の訓練を受けている。急変については管理者との連絡を密にしており、Drへもいつでも連絡が取れる体制になっている</p>	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練はもとより非常時の連絡網を決め連絡等がスムーズに行くよう訓練をしている。災害用の食糧の備蓄、飲料水の確保の為にポリ容器を常備をしている。避難の際の安全性の確保の為通路の整備をし、毎月1回防災チェックをしている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	鍵も柵も無い介護を目標としている為常に見守りの状況を崩さず入居者の動向に注意を払うという姿勢で介護に当たっている。ご家族の方には入居の折にその旨をお話ししご理解をいただいている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定と声かけにより変化の早期発見に努めており、早めの受診を心がけている。お薬等の情報は申し送り簿に記入し誰もが分かる体制をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一欄表をユニット毎に作成しいつでもチェックできる。ケア記録簿には現在服用している薬の説明書が添付してありどんな薬を飲んでおりどのような作用があるか検証できるようになっている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方は余りいないが排便の記録をし予防と早期対処を心掛けている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に歯磨き、出来ない方にはうがいをし口腔内の清潔のを保てる様にしている。義歯のある方には夜間はお預かりし義歯洗浄剤につけている		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方がいらっしゃるので献立は同じでも調理方法を変え摂取量にも注意し、盛り付けにも工夫し満足感が得られるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザについては入居者はもちろん職員も全員予防接種を受けている。その他の感染症についても侵入を防ぐ為外出から帰ったときの手洗いうがいを励行し予防に努めている。冬季は加湿器を設置し乾燥に注意を払っている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は出来るだけ新鮮なものを用意できるように買出しを小まめにし自家製の野菜を使用することも多い、肉魚はその都度近くの業者さんに届けていただく。消毒日を決めて器具の消毒にも気配りしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はバリアフリーで鍵が掛っていない為自由に出入りが出来る		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にスツールがあり腰掛けて履物が履けるようになっている。玄関の外にも手すりがあり歩くのが不自由な方でもご家族の見送り等ができる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見る時でも一人でいたい方のために一人掛けのソファがありゆったりできる。庭にはベンチが置いてあり自由に屋外に出て1人の時を楽しむことも出来る。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には出来るだけ物を置かないようにしていますが位牌や写真を飾ったりなさっている方もおります。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	省エネルギーにも配慮し外気との差を余り大きくしないよう気配りしている。其の分衣類の調節を小まめにするよう心がけている。冬季には加湿器を使用し乾燥しすぎないようにしている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり必要と思われるところには手すりが付いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表示は出来るだけ大きくしている。居室の入口には写真を入れて分かり易くしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外部への出入りは自由になっておりいつでも庭の散歩が出来る。天気の良いときはベランダや芝生でお茶をしたり、日向ぼっこをしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者一人ひとりに寄り添い各人の個性を尊重し思いを汲み取りながら 閉じ込めない介護、日々を元気に活動的に過ごしていただくことを念頭に置きそれを実践してい